

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 茨城県 】

学校名【 谷田部東中学校 】

1 実践テーマ	I
2 実施対象者 (学年・人数)	つくば市立谷田部東中学校 第1学年 190名(6クラス)
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合的な学習の時間「つくばスタイル科」) ② 行事名 () ③ その他 () (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	・東京オリンピック・パラリンピック2020を通して、多様性や国際理解、先端技術が社会に与える影響などについて考え、未来の社会に対して自分たちができることを考える。
5 取組内容	○つくばスタイル科の学習計画 単元名 自分に気付こう！実社会に触れて学ぶ ～2020東京オリンピック・パラリンピックを通して～ 第1時 オリピックやパラリンピックはどのような人たちによって支えられているのだろうか。 第2時 東京2020の開催に向けて、異なる文化や特徴をもった人たちを受け入れるために大切なことはどんなことだろうか。 第3時 過去の競技大会ではどのような先端技術が生まれたのだろうか。 第4時 2020年の社会にあるとよい技術はどのようなものだろうか。 第5時 パラリンピックとはどのような競技なのだろうか。 第6時 共生社会を実現するために私たちにできることはどのようなことだろうか。 第7時 東京2020大会で新しい競技場は必要なのだろうか。 第8時 UDスポーツとは何だろうか。 第9時 パラスポーツにチャレンジしよう。 ～卓球バレー、ゴールボール、アイマスク体験～ 令和元年12月4日(水) 5・6校時(中1)



ゴールボールの様子

アイマスクを着用し、ボールは鈴入りのボールを使用した。



卓球バレーの様子

卓球バレー用のラケットと音がなるボールを使用して卓球バレーを実施した。



アイマスク体験の様子

ペアをつくり、一人がアイマスクを使用して校舎内を歩いた。

第10時 夢の紡ぎ方

～岩淵幸洋さんの生き方から～

令和元年12月11日（水） 5・6校時（中1）



岩淵幸洋さんの講演会の様子



卓球部の生徒とラリーをしている様子

<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> •生徒はオリンピックやパラリンピックの意義について理解を深めることができた。 •どのような技術があったら便利かという視点でグループごとに話し合い、新たな技術製品についてプレゼンテーションすることで、伝える力を高めることができた。 •パラスポーツの体験を通して、障がいを抱えている人の気持ちを考えたり、観戦する際に気を付けるべきことについて思いをはせたりすることができた。 •岩渕幸洋さんの講演会を通して、パラスポーツの意義やヨーロッパに比べて日本のパラスポーツの知名度は低いこと、プロ卓球選手になるまでの過程などを知り、視野を広げることができた。
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> •パナソニックの教材を活用することで、生徒は興味・関心を持って授業に取り組むことができた。 •パラスポーツを体験する際に、生徒が主体となって司会や運営を行った。はじめて体験することで手探り状態の中、生徒たちが話し合いながらルールの確認をしたり、問題が生じたら話し合いのもと解決したりして、生徒の主体性を育むことができた。 •プロ卓球選手の岩渕幸洋さんの講演を聴くだけでなく、卓球部の生徒や希望者がラリーをする機会を設定し、プロ選手のレベルを肌で感じるすることができた。 •講師の先生と綿密に連絡を取り合い、本校のねらいに沿った講演会を実施することができた。 •学年通信やホームページを通して、本事業を保護者や地域の方々にアピールすることができた。
<p>8 主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> •パラスポーツを体験する際に、専門の指導者に教えてもらえる場を設定できると、パラスポーツに関する知識をより深めることができたのではないかと考える。 •外部機関が作成している教材を自校化してアレンジできると、ねらいに迫りやすくなるのではないかと考える。
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> •東京オリンピック・パラリンピック2020大会の新聞記事やニュース映像などを活用しながら、国際理解や共生社会を築くために必要なことはどのようなことかさらに深めていきたい。 •キャリア教育の視点から、総合的な学習の時間や学活、保健体育、社会などの教科と関連付ながら、見通しをもった授業実践を展開したい。